

「東播磨地域ビジョン2050」の概要

理念

水辺・ものづくりのまちでつながりワクワクする未来

営みの源となる水辺と活力を生み出すものづくりのまち東播磨で、まちや歴史、文化、自然、産業と人とのつながりを深め、心躍る新たな未来を創り出す

将来像(目指すべき東播磨の姿)

1 自律・快適 東播磨

誰もが自律し、健康で快適な生活を送る

2 安心・活力 東播磨

防犯・防災の基盤が整い、力強い産業が活力を生み出す

3 環境・交流 東播磨

自然環境の営みを大切に、地域内外の交流が広がる

将来像の実現に向けた取組の方向性

実現に向けた方向性	主な取組
1 軽やかに動き、いきいきと暮らす 自動運転、デマンド交通など新たな交通機関の充実やデジタル化の進展により、軽やかに移動する働き方や暮らし方、二地域居住など住まい方が広がる。危機に際しても動的で柔軟に対応することで回避し、犯罪や災害から暮らしを守る。切れ目のない福祉・医療を必要により活用しながら、日々の移動で体を自然に動かし、スポーツに参画することで、健康な生活と長寿を享受できる。	<ul style="list-style-type: none">・快適で便利な移動手段の確保・自然に健康長寿になれる方策・スポーツを通したいいきいきとした暮らしづくり・防災・減災の基盤を整備・防犯力の向上
2 ひとを育み、生きがいを実感できる 安心して子どもを産み、育てやすい環境を地域ぐるみで整え、自律して挑戦する若者が育つ。多様かつライフステージに応じた生き方、働き方、学び方の選択肢が広がり、互いを支え合いながら自分の大切にしている価値を追求し、人生100年時代を謳歌する。	<ul style="list-style-type: none">・広がる生き方・働き方・学び方の選択肢・チャレンジする若者を育む教育・多様な人々が混じり合い支え合い認め合う社会・子育てしやすい環境
3 伝統と文化が息つき、交流が広がる 暮らしの中に息づく祭りなどの伝統文化、豊かな歴史を守り、上手に引き継ぐことで地域の魅力が高まり、暮らしやすい環境や多彩な魅力が移住者や二地域居住者、観光客などを国内外から引き寄せる。	<ul style="list-style-type: none">・ゆるやかにつながる地域・地域志向への対応・地域の歴史と伝統への愛着・新たな担い手の育成・地域に根ざした観光資源の活用
4 人・もの・情報がつながり、元気にぎわう 情報や交通のテクノロジーの進化に伴う人・もの・資金・情報の多様なネットワークを基盤に、多くのスタートアップやコミュニティビジネス、シェアリングサービスが生まれ、「ものづくり」の資源と最先端テクノロジーが融合しグローバルな事業展開を牽引するなど、まちににぎわいと活気があふれる。	<ul style="list-style-type: none">・自分たちでつくる、住み続けたいまちづくり・多様な主体による起業・創業の促進・産業の稼ぐ力を向上・デジタル技術の活用・シェア経済による経済の活性化・柔軟に対応できる組織・道路ネットワークの整備
5 自然を生かし、資源が循環する ため池、河川、海浜など地域の「水辺」と支える里山とが広がり豊かな自然と暮らしが共存し、農水産物の地産地消や再生可能エネルギー、CO ₂ フリーとされる水素の域内自給が成立するなど、資源とエネルギーの好循環を生み出している。	<ul style="list-style-type: none">・エネルギーの域内自給・先進的海洋プラ対策・自然環境や景観への配慮・農業及び水産業の持続的発展・豊かな水辺を取り戻す取組

「東播磨地域ビジョン2050」の
詳しい内容は、県HPでご覧ください。

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/ehk01/vision/vision1.html>



【参考】

策定の経緯

21世紀初頭の兵庫のめざす将来像を示し、中長期の県政の指針ともなっている「21世紀兵庫長期ビジョン」の策定から20年、改訂から10年が経ち、世界も日本も大きな変革の中にあります。兵庫県のみならず、日本では人口減少等様々な課題が進行する中で、地域の特性に合わせて、住民が共有できる2050年の「なりたい姿」を描く新しい「全県ビジョン」を策定することになりました。

東播磨県民局でも、30年後の「2050年の東播磨の姿」を描き、そのビジョンを地域の住民、事業者、関係団体、行政等の多様な主体が共有して、実現に向けて各自で取組や施策を進めていく新たなビジョンを令和4年3月に策定しました。

時代の潮流・背景

1 人口減少・超高齢社会 <ul style="list-style-type: none">合計特殊出生率は1.4前後で推移し、人口減少時代へ突入超高齢社会の到来高齢者に占める後期高齢者の割合が拡大する予測	2 自然の脅威 <ul style="list-style-type: none">地球気温は長期的に上昇傾向大雨の年間発生回数が増加異常気象の常態化や環境の激変による暮らしぶりの大きな変化や生存へのリスク要因となる可能性	3 テクノロジーの進化 <ul style="list-style-type: none">少子高齢化、過疎化等の課題をドローン配達等のイノベーションで克服化石燃料に頼らないテクノロジーへの投資が加速
4 世界の成長と変化への対応 <ul style="list-style-type: none">世界人口、経済の拡大各国の経済成長に伴う資源の枯渇と争奪戦の激化日本の製造業の存在感の低下	5 経済構造の変容 <ul style="list-style-type: none">シェアリングエコノミーの発展今後成長する国々で必要とされ、デジタル化の影響が大きい医療、福祉、健康、教育等の分野の伸長格差の拡大など社会のゆがみの発生懸念	6 価値観と行動の変化 <ul style="list-style-type: none">SDGsの価値観に基づく取組みの機運の高まりと行動の変化新たな価値観を受け入れ、行動を変化させなければならない場面の増加

東播磨地域の特性

1 東播磨地域の人の動き <ul style="list-style-type: none">面積は266km²で県全体の約3.17%県内人口のうち13%の約71万人が居住人口は平成12年をピークに減少に転じた。今後高齢化が進行する見込み	2 なりたち、自然、文化 <ul style="list-style-type: none">県の中央臨海部に位置、3市2町で構成神戸、姫路、北播磨、播磨灘に囲まれる。東経135度が通り、一級河川加古川が流れ、加古川流域には播州平野が広がる。播磨臨海工業地帯の中央に位置し、重工業の生産拠点である。降雨、降雪が少ない地域であり、大小様々なため池が集中している。阪神地域や姫路への交通の便が良く、平野で起伏が少ないためベッドタウンとして発展	3 地域資源・歴史遺産 <ul style="list-style-type: none">県内最大の流域面積を持つ加古川、ため池、明石海峡、播磨灘に面した海岸線など地域全体が豊かな水辺空間に恵まれている。いなみ野台地に分布する県下最大規模の加古大池等のため池群は、水源確保の歴史を語る文化遺産でもある。文化財、歴史的遺産が豊富である。
--	---	---

4 多彩な産業 <ul style="list-style-type: none">臨海部を中心に播磨臨海工業地帯として発展。鉄鋼、化学工業、機械工業等を中心にハイテク分野に秀でる大企業や技術力のある中堅・中小企業が集積伝統的に稲作が盛んであるほか、特徴ある農産物も生産。水産業も盛ん東西方向の鉄道やそれに接続するバスによる交通ネットワークが形成	5 災害の備え <ul style="list-style-type: none">臨海部は高潮や高波による浸水被害も受けやすく、近年大型台風により大規模な浸水被害が生じた。阪神・淡路大震災では明石市等で甚大な被害が発生。山崎断層帯を震源とする地震災害や南海トラフ地震による津波浸水被害も予測されている。今後発生する可能性がある地震やそれによって生じる津波、台風や豪雨等による河川の氾濫や高潮によって生じる浸水等の大災害に備え、地域が一体となった自主防災が望まれる。
--	--

東播磨地域の課題

- 生活(くらし): 災害への備え、安心の確保(防犯)、移動の不便さ、健康・医療
- 生き方・働き方・学び方: 少子化と子育て環境の不安、多様性が進む社会、未来を切り拓く人材の育成、生き方・働き方・学び方の変化
- 地域: コミュニティ機能の低下、地域の担い手の減少、素通りされる地域、人口の転出入
- 産業・経済: 産業構造の変化に対応できる人材の不足、起業があまり盛んでない、空き家問題、交通渋滞、組織の硬直化
- 自然・環境: 地球規模の環境問題、自然環境の保全、農業及び水産業の持続化、水辺環境の再生